



優勝メダルを胸に酒東チーム

科学の甲子園全国大会へ抱負

県代表・酒田東高チームが市表敬

茨城県つくば市で3月に開催される科学技術振興機構(JST)主催「第11回科学の甲子園全国大会」に本県代表として出場する県立酒田東高校(大山慎一校長、生徒550人)の2年生メンバー7人が17日、酒田市を表敬訪問し、丸山至市長、鈴木和仁教育長に全国大会での活躍を誓った。

科学好きな生徒に活躍の場を提供することで、その裾野を広げ、トップ層をさらに伸ばすことを目的にJSTが2012年から毎年

実施している大会。予選に当たる県大会は昨年10月に行われ、同校を含む県内16校から1チームずつがエントリー。理科4領域と数学、情報の知識を問う筆記、ペー玉やストロー、ナットを使って高さ約15cmの直方体の重心を調整、倒れにくい箱、倒れやすい箱の2種を構築する実技の合計点で競った。酒田東チームは360点満点のうち238点(筆記103点、実技135点)をマーク、2位の山形北に30点の大差を

つけて優勝、庄内地域から初の全国大会出場を決めた。この日は、大山校長、担当の菅原二壽教諭の引率で、メンバー7人が市庁舎を訪問。大山校長が「2020

年度に創立100周年を迎え、第2世紀の歩みを進める中で全国大会出場は追い風になる。さらに高みを目指したい」と述べた後、メンバーが「科学への知見を深めたい」「全国のライバル仲間と交流してこる」「出るからには優勝したい」と抱負。これを受け同校OBの丸山市長は「先輩として皆さんを誇りに思つ。日本の科学分野を背負う人材として、ぜひ活躍してほしい」と激励した。

酒田東チームを含む全国47代表が一堂に集う全国大会は3月18日(金)から4日間、つくば市のつくば国際会議場、つくばカピオで開催される。

酒田東チームを含む全国47代表が一堂に集う全国大会は3月18日(金)から4日間、つくば市のつくば国際会議場、つくばカピオで開催される。